

## 創立記念講話 （全校朝会にて）

あす11月5日は創立記念日で、学校はお休みです。

江戸川学園取手小学校は、昨年4月に開校したばかりで、1年半が過ぎたところです。みなさんは入学したときのことを覚えていますか。

江戸川学園という名前の由来は、学校の始まりが江戸川（利根川より分流）という川の近くにあった城東高等家政女学校（後に江戸川高等家政女学校などと改称、現江戸川女子中学校・高等学校／江戸川区東小岩）だったからです。

一貫教育校の取手高等学校は、1978年（昭和53年）4月1日開校となり、4月6日に高等学校1期生998人を迎えて、第1回入学式をしたのだそうです。

そして、9年後の1987年（昭和62年）に中学校が開校しました。これで、中高6年間一貫教育校となったのです。このあたりから進学実績がぐんと伸びたのだそうです。

それから27年後、小学校ができたのです。茨城県初の「小中高12年間一貫教育校」となったのです。

高等学校の校舎を造る前は、今の中・高等学校がある場所は、ただの原っぱでした。校歌の1番の通り、利根川がゆっくり流れ、遠くに富士山が見えました。この場所で「世界を築く礎」となる人を育てるのだと決意したのだそうです。

あれから38年の年月が過ぎました。開校以来「心豊かなリーダーの育成」を目指して、世界の中で、いや地球の中でリーダーとして活躍できる人を育ててきました。リーダーというのは、先頭に立ってみんなを引っ張るだけではありません。ときには他のリーダーやみんなの後押しをする人のことを言います。そして、一番大事なのは、自分の中のリーダーに声をかけ、進んで行動することです。

校歌には、「世界を築く礎のおのれの道を究めつつ」という言葉が入っています。歌い重ねるたびに、歌の意味がよくわかってくると思います。夢やあこがれを実現するために、毎日の生活に一生懸命取り組み、努力を重ね、自分の力で未来を切り拓くことを願っています。

あすは校歌の意味を考えながら、「心豊かなリーダー」として活躍することを考え、自分のすべきことを実行してみましょう。

平成27年11月4日（水）

江戸川学園取手小学校長 若林 富男